

# KADENA SKOSHI

JULY 2012

Vol. 46

第18航空団広報局発行

## 祝米国独立記念日

第18航空団広報局

## KADENA AIR BASE CELEBRATE INDEPENDENCE DAY

(U.S. Air Force graphic by Naoko Shimojii)



7月3日、マレック公園にて、米国独立記念を祝うピクニックが開かれました。今年は地元一般の方々にも開放されるアメリカフェストは開催されず、同公園で基地内の在住者を対象とした小さな祭りが催されました。当日は、沖縄の夏らしい青空が広がり、多くの家族連れが会場を訪れ、音楽、ゲーム、アメリカンフードを楽しんでいました。午後9時過ぎ、ステージのバンド音楽にあわせ、独立記念を祝う花火が打ち上げられました。よく晴れた空に、次々と上がる華やかな花火を見上げながら、会場にいる人々は遠い本国に想いを馳せているようでした。

独立記念は1776年7月4日、大ブリテン王国からの独立宣言公布を記念して、アメリカ合衆国の祝日と定められています。



(写真全て、米空軍：ジャスティン・ヴィゼイ上等兵撮影)



SKOSHI KADENA JULY 2012

- 祝米国独立記念日
- 地元ハーリー大会に参加
- 沖縄病院の訪問
- 第18運用群司令官、感謝状受領
- 第18整備群、那覇基地を訪問
- 「沖縄ファースト」ビジネスツアーハイ
- 北谷町議会基地対策特別委員会 嘉手納基地内を視察
- 第15回嘉手納町英語コンテスト

[www.kadena.af.mil/](http://www.kadena.af.mil/)

## KADENA SHOGUN!



## 地元ハーリー大会に参加

第18航空団広報局

6月24日、第25回嘉手納ハーリー大会が嘉手納町漁港にて開催されました。嘉手納基地からのチームを含む60チームが職域試合に出場しました。嘉手納基地のチームは男女混合で編成され、第19試合で地元2チームと競漕し、往復500メートルの距離を1位でゴールしました。残念ながら上位9チームの中には入ることはできず、準決勝に進むことはできませんでした。

翌週7月1日（日）には、夏空の下、北谷フィッシャリーナで開催された第6回北谷ニライハーリーに嘉手納基地から初参加しました。このハーリーには、「子供」、地元の方が中心の「門中」、幅広い層へ向けた「一般」、「女子」の競技部門があり、『嘉手納ショーグン』チームは、計33チームが出場した一般部門に参加。予選第9組目で地元の2チームと対戦し、組内で2位となりました。予選タイム上位9チームが争う決勝戦には進めませんでしたが、男子チームが4分58秒でゴールした那覇ハーリーのコース（600m）よりも長い今回のコース（700m）を4分57秒という好タイムでゴールしました。勝敗に関心が高まるのももちろんのことですが、嘉手納基地からのチームが地域の行事に参加することは、沖縄文化への敬意を表することになります。選手たちは、那覇ハーリー、嘉手納ハーリー、北谷ハーリーに参加し、沖縄の人々との交流を存分に楽しんでいました。

(嘉手納ハーリーの写真全て、嘉手納基地広報局：崎浜秀昭撮影)  
(北谷ハーリーの写真全て、嘉手納基地広報局：川武 沙弥香 撮影)

## 沖縄病院の訪問

第18航空団広報局

7月13日、宜野湾市に所在する独立行政法人国立病院機構 沖縄病院より、患者3人、家族3人、病院職員4人の方々が、嘉手納基地を見学に訪れました。初めに歴代の航空機を展示してあるエアパークを訪れ、実物大の航空機を触ったり集合写真を撮りました。次に、ハブ・ヒルに止まり飛行場を見学しました。F-15戦闘機が着陸して駐機場に戻る様子などを見ることができました。最後に沖縄戦の降伏調印式が行われた「ピース・ガーデン（平和の園）」に立ち寄り、調印書の刻印版などを見学しました。同病院の訪問は昨年10月の訪問に引き続き2回目となりました。

(写真全て、嘉手納基地広報局写真部：金城順子撮影)

WELCOME TO KADENA AIR BASE!





(写真全て、嘉手納基地広報局写真部：金城順子撮影)



## 第18運用群司令官、感謝状受領

第18航空団広報局

7月3日、真部朗沖縄防衛局長から第18運用群司令官ディビッド・ナイホム大佐へ感謝状が手渡されました。ナイホム大佐は在任中のあよそ2年間、航空機騒音の軽減問題について取り組み、任務を遂行すると同時に運用群として実施可能な様々な軽減措置を積極的に支援してきました。県立高校入試期間中の飛行訓練自粛、特別な行事のある時間帯の飛行運用調整、航空自衛隊基地やグアムへの訓練移転などの様々な調整に尽力しました。また、同航空団所属のF-15戦闘機が離着陸する際、飛行方法の変更を行うことにより地上における騒音軽減を図るという策を取り入れました。

ナイホム大佐は、運用群は、騒音軽減を念頭におきながら運用を行い、実施可能な軽減策を常に模索している、と挨拶の中で述べました。

## 第18整備群、那覇基地を訪問

第18航空団広報局



6月27日（水）、第18整備群司令官ブライアン・ビアーズ大佐や整備関係の中隊長を含む視察団が、那覇基地の航空自衛隊第83整備補給群を訪問しました。第18整備群は、航空機や搭載機器などの整備を担当する部隊です。日本側のカウンターパートである自衛隊の部隊を訪問することは、交流を深め相互運用性を高める目的があります。この日は、同整備補給群隸下の検査隊、修理隊、非破壊検査場、弾薬作業場、補給隊、エンジン小隊を視察、隊員の説明に熱心に聞き入っていました。



(写真提供：航空自衛隊)

## 「沖縄ファースト」ビジネスツアー 地元企業、米軍の資材購入課を見学

第18航空団広報局



2012年6月26日、嘉手納基地第18航空団広報局主催による「沖縄ファースト」ツアーオンラインを実施しました。沖縄県産業振興公社の協力を得て、県内の建築資材を取り扱う企業から約20名の参加がありました。当時は、嘉手納基地の第18施設中隊及び第718施設中隊の各資材購入担当者から業務に関する説明と、資材倉庫の見学が行われました。

また、第18契約中隊の担当者より、米軍とのビジネスにおける決済に不可欠なGPCカード（クレジットカード）の説明も行われました。この視察は、第18航空団配下の部隊の任務や運用について、地元沖縄のビジネス経営者に理解を深めて頂くことを目的として実施したものでした。

(写真全て、嘉手納基地広報局写真部：金城順子撮影)



第718施設中隊は在沖米軍施設内の約8,000戸もの家族住宅(ハウジング)をすべて管理し、修繕業務等を担っています。第18施設中隊は、ハウジング以外の嘉手納基地内にある建物や道路などのインフラ整備及び改修業務を行い、その他にも消防隊や爆発物処理班などもこの中隊に所属しています。その2個中隊にそれぞれ資材購入部署があり、建築や修繕工事に使用する様々な建築・水道・電気資材を購入し任務を支えています。今回は使用している資材等に関する説明が行われ、参加者からも様々な質問があり、活発な意見交換がありました。

説明を行った第718施設中隊のマテリアル・メンテナンスの宮城克志さんは「今回の説明会に少しでも協力できたことを心から嬉しく思います。今後、地元への貢献と当方のサービス向上に繋がるWin-Winの（両者のプラスになる）関係に発展することを願っています。」と話しました。



## 北谷町議会基地特別対策委員会、嘉手納基地を視察

第18航空団広報局

2012年7月10日、北谷町議会の基地特別対策委員会及び北谷町職員計16名が嘉手納基地を訪れ、第18航空団広報局より航空団の概況説明と基地内視察を行いました。

今回の視察は、基地特別対策委員会の方々に、北谷町に隣接する嘉手納基地の任務や運用に関する理解を深めて頂くことを目的とし、広報局が主催したものです。

概況説明では、第18航空団の組織をはじめ様々な任務、そして空軍兵が行っている地元へのボランティア活動や交流活動などを紹介しました。意見交換では、北谷町議会の委員から米軍関係の事件事故防止に努めてもらいたいという意見があり、対応した広報局長のアンダーソン少佐は、航空団幹部も常に、隊員への品行や沖縄文化への理解を深めるため訓示し、新しく着任した隊員にはオリエンテーションを行って教育していることを説明しました。さらに双方ともに、今後も良い信頼関係を維持するために、協力し合うことを確認しました。



CHATAN TOWN ASSEMBLY

(写真提供：北谷町議会)



## 第15回嘉手納町英語コンテスト

第18航空団広報局

2012年7月19日、嘉手納町英語コンテストが開催されました。小学生の部10名、中学生の部5名が、それぞれ英語で物語を話し競いました。小学生は「うさぎとかめ」や「赤ずきん」など誰もが知っている童話を中心に、中学生は実話をもとにしたお話を含め、多様な作品を英語で披露しました。

例年、第18航空団の代表は英語コンテスト小学生部門での審査員及び第18航空団特別賞の贈呈を務めており、今年は第18航空団広報局長のクリスト

ファー・アンダーソン少佐が参加しました。出場者は嘉手納町の各学校から選ばれて参加しているというだけに、練習を積み重ねて臨んでいました。小学生部門の金賞、銀賞、奨励賞が発表された後、アンダーソン少佐から第18航空団特別賞が発表されました。航空団特別賞には屋良小学校6年の宮城穂乃花さんが選ばれ、アンダーソン少佐から賞状と副賞として英語の絵本やピクチャーディクショナリー（絵辞典）、そして嘉手納町からは図書カードが贈られました。

授賞式の際、アンダーソン少佐は「穂乃花さんは英語の発音も素晴らしい、自信を持って発表されていました。穂乃花さんの“さるかに合戦”は物語としても興味深く、ジェスチャーを加えた表現も良くて、私もお話に引き込まれていきました。あめでとうございます！」とコメントを贈りました。野国総管賞（グランプリ）には中学生部門から嘉手納中学校1年のアンテノルクルーズ 亜征（あゆき）君が選ばれました。

**KADENA TOWN ENGLISH CONTEST!**



(写真提供：嘉手納外語塾)

S K O S H I K A D E N A

*Skoshi Kadena*, published by 18th Wing Public Affairs, Kadena Air Base Kadena Web Site: <http://www.kadena.af.mil> E-mail: [18wg.pa@kadena.af.mil](mailto:18wg.pa@kadena.af.mil)



Chief, 18th Wing Public Affairs Office: Major Christopher Anderson

Editors: Ms. Takako Fukuhara, Mr. Hideaki Sakihama, Ms. Keiko Toma, Ms. Sayaka Kawatake, Ms. Makiko Miyara and Ms. Derrice Daniels  
Graphic Designer: Ms. Naoko Shimoji

The *Skoshi Kadena* is published monthly and is an authorized publication by 18th Wing Public Affairs in Kadena Air Base. Contents of the *Skoshi Kadena* are not necessarily the official views of or endorsed by the U.S. Government, the Department of Defense, or the Department of the Air Force. The editorial content is edited, prepared, and provided by the 18th Wing Public Affairs Office. All photographs are Air Force photographs unless otherwise indicated. Contents may not be reproduced, distributed, or translated without the prior written permission from the 18th Wing Public Affairs Office.

『スコシカデナ』は、嘉手納基地第18航空団広報局より毎月発行されている出版物です。編集内容は、第18航空団広報局により編集、準備、提供されています。掲載される内容は、米国政府、米国国防省または米空軍の見解・承認を必ずしも反映するものではありません。第18航空団広報局の書面による事前許可なしに、掲載写真や記事の無断転載を禁止します。